

## シリーズ

# 平塚のお祭り③

## 神輿(みこし)

神輿といえば夏祭りの印象が強いと思いますが、平塚では春祭りにもかなり担がれています。

市内の神輿で年代が確実に判る最も古いものは入野八坂神社の神輿です。神輿内部に、文化9年(1812)に再興された旨の墨書が記されています。もとは寒川町岡田の八坂神社で所有していた神輿で、明治29年に入野へ譲渡さ



入野八坂神社の神輿渡御



寺田縄日枝神社の神輿渡御

れました。市内の一般的な神輿と造りがやや異なり、寒川神社などの神輿に似ています。現在は宵宮と宮入のときに鳥居から少し担ぐだけですが、古風な神輿をお祭りでぜひご覧ください。入野のお祭りは例年4月第一日曜日に実施されます。

市内の神輿で注目されるのは、関東一の宮大工とも謳われた大山の手中明王太郎が、江戸後期から明治時代にかけて製作した神輿が5基残されていることです。明王太郎の神輿はぜんぶで19基残されており、お膝元の秦野市と平塚市に5基ずつ残されています。春祭りで明王太郎の神輿が見られるのは寺田縄の日枝神社です。胴太でどっしりとした形が特

徴の神輿です。現在は、これをモデルに氏子が手作りした神輿を担いでいますが、例祭日には境内に古い神輿も飾られます。例祭日は例年隣の入野と同じなので、4月第一日曜日に金田へ出かけると貴重なお神輿が二つ見られます。



寺田縄日枝神社の旧神輿

神輿の担ぎ方にも地域の特徴が表れます。平塚では一般に台棒(担ぎ棒のこと)の内側に人が入って担ぎます。これなら神輿が倒れたときに下敷きにならずにすむともいわれます。印象的なのは、台輪の両側に付いた箆笥の取っ手状の金具(実際に"タンス"と呼ぶ)を激しく打ち鳴らし調子をとることです。他地域では神輿にタンスが付いていません。そのリズムに乗って上下に神輿を揉み力強く担ぎます。掛け声は「どっこい、どっこい」、「どっこい、そーりゃ」が基本です。かつては「わっしょい」や「やーとうさっせ」などだったのですが、昭和50年頃を境に「どっこい」へ変わっていきました。甚句は神社や御酒所で神輿が発着する際に唄われますが、真土神社



真土神社の神輿渡御

のお祭り(例年4月第二土曜日)では、神輿を担いでいる間中、ひっきりなしにマイクで甚句を唄うのでたいへん賑やかです。これらの特色は平塚のみならず藤沢から二宮にかけて湘南地域独特の祭文化です。

お迎えした氏神さまの御魂を神輿に遷して渡御し、地域へくまなく幸いがもたらされます。担ぎ手が熱くなるほど神輿も激しく揺れ、見つめる私たちにも大きな活力が与えられます。4月の週末は神輿と出会いにお祭りへ出かけてみませんか。(平塚市博物館学芸担当)

# 村田朋泰展

開催期日 2008年4月12日(土)~5月25日(日)

会場 平塚市美術館

開館時間 9:30~17:00(入場は16:30)

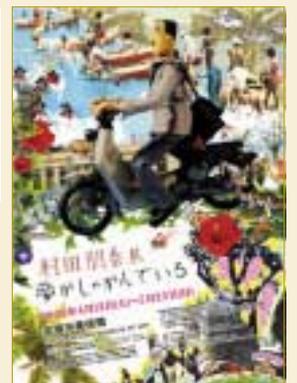
休館日 毎週月曜日(5月5日は開館)

観覧料 一般700円(560円)/大高生500円(400円) ※( )内は20名以上団体料金  
中学生以下、第2・第4土曜日高校生無料

お問合せ 0463-35-2111

### ● 展覧会内容 ●

「夢」や「記憶」をテーマに立体アニメーションで活躍する気鋭の映像作家、村田朋泰が大規模に幅広くアニメ・漫画・実写映像・立体造形を駆使し、新たな映像世界を生み出します。



## 平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご協力いただいた方(敬称略) (平成19年11月から20年1月)

■ 吟道紘仙流 (11.23) ■ 竹遊会 (12.21)



発行//平塚市(文化行政推進室) ●お問い合わせ及び寄付金のお申し込み

〒254-0045 平塚市見附町15-1



TEL 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

ご意見ご感想などお聞かせください(今後の参考とさせていただきます) →ご意見等はEメールで(E-mail //bunka@city.hiratsuka.lg.jp)